

つくまい 龍ヶ崎の撞舞



(表紙写真提供：龍ヶ崎市)

「龍ヶ崎の撞舞」は、毎年7月下旬に八坂神社の夏季例大祭・八坂祇園祭の最終日に行われる伝統芸能です。平成11年に国選択無形民俗文化財、平成22年には茨城県の無形民俗文化財の指定を受けました。

撞舞の起源は定かではありませんが、奈良時代に中国から伝わった「散楽^{さんかく}」という芸能が神前で行われたことがきっかけといわれており、年月をかけて庶民の生活に密着した形で約450年受継がれてきました。

龍ヶ崎の場合、昔から水田地帯を有していたため、撞舞は雨乞いや五穀豊穡、疫病除けを願うものとして人々に親しまれてきました。

撞柱^{つくばしら}の頂上には、米俵の両端に使われる丸い藁のふたを120枚重ねて作られた円座^{えんざ}が置かれています。演技をする舞男^{まいおとこ}は、円座の上で逆立ちをしたり、矢を放つなどの妙技を披露していきます。

舞男が四方に放った矢を拾うと、1年間災厄を免れるとも伝えられているため、矢が放たれると会場は一気に興奮の渦に巻き込まれます。

撞舞は龍ヶ崎市以外でも行われており、千葉県野田市では「津久舞」、旭市では「太田のエンヤーホー」、多古町では「しいかご舞」、秋田県潟上市^{かたがみ}では「蜘蛛舞」として親しまれています。

舞の様子や舞人の衣装、お面などに地域差はありますが、高い柱に人が登り、軽やかに舞を演じるといった形態は似ています。

初夏の涼しい夕暮れ時、ご家族・ご友人とともに、空高く舞う龍ヶ崎の撞舞をご覧ください。ぜひ是非観てはいかがでしょうか。



- ◆会場：龍ヶ崎市根町「撞舞通り」
- 日時：平成29年7月23日(日)
- 住所：茨城県龍ヶ崎市根町
- アクセス：
【車】首都圏中央自動車道路
[牛久阿見IC] から約20分
【電車】関東鉄道龍ヶ崎線「龍ヶ崎駅」から
徒歩約10分